

1. 実況上の着目点

- ① 大型の台風第14号は、日本の南を西北西進。台風周辺からの暖湿気の影響で、南西諸島付近の海上では、雨雲が発達し、局地的に1時間20mm程度の雨量を解析。雷を多数検知。
- ② アリューシャン近海の低気圧から前線が三陸沖にのびている。
- ③ 太平洋高気圧が日本の南に張り出しており、その縁辺を回る下層暖湿気の本州付近に流入し、大気の状態が不安定となっている。西日本の太平洋側では、局地的に1時間30mm程度の雨量を解析。雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の前線は、18日朝には日本海にのびて、19日にかけて東北地方～日本海に停滞する。20日は、前線上の北海道付近にキンクが発生し東進。また、18日の夜には、サハリン付近で低気圧が発生し、19日朝にかけて千島近海に進む。19日夜には、別の低気圧が日本海北部で発生し、20日にかけて北海道付近を通過する。これらの低気圧やキンクの影響で、北海道地方では19～20日にかけて、前線に向かって流れ込む1項③の高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の影響で、西日本～東北地方では20日にかけて、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある。西日本～東北地方では20日にかけて、北海道地方では20日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。西日本～東北地方では20日にかけて、北海道地方では19～20日は、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項①の台風第14号は、日本の南を西北西進し、18日に南西諸島に最も接近する。19日には東シナ海に進み、その後、華中で熱帯低気圧に変わる。南西諸島～西日本では、台風本体や台風周辺の下層暖湿気の影響で、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島～西日本では20日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、南西諸島では19日にかけて、台風の接近に伴い非常に強い風が吹いて、波が高くなり、大しけとなる所がある。うねりを伴った高波に警戒し、強風に注意。
- ③ 西～東日本では、18日は、500hPa 5940mの上空の高気圧に覆われて、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラート参照)。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ①雨量(06時から24時間)：沖縄150、九州南部・奄美120mm。
- ②波浪(明日まで)：奄美・沖縄7、九州南部6、四国・九州北部4、近畿3m。
- ③高潮(明日まで)：大潮の時期。南西諸島～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「台風第14号に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。